自己評価点検報告書

令和　７年　２月　２８日現在

学校名　専門学校金沢美専
令和　７年　２月　２８日作成

基準１　教育理念・目的・ビジョン

①自己点検評価結果

＊　5．完璧　4．かなり進んでいる　3．普通　2．やや足りない　1．ほとんど進んでいない　NA．当てはまらない

1-1　教育理念について	2024
学校が教育を行う理念が明確に定められているか	4
理念は教職員・学生に周知されているか	4

1-2　教育目的・育成人材像について	2024
学校が教育を行う目的・育成人材像などが明確に定められているか	4
目的・育成人材像を実現するための具体的な計画・方法を持っているか	3
目的は時代、業界、学生のニーズに対応しているか	3
目的・育成人材像は教職員・学生に周知されているか	4
目的は時代の変化に対応しその内容を適宜見直されているか	4

1-3　ビジョンについて	2024
学校の将来構造を描き、３～５年程度先を見据えた中期的構想を抱いているか	4

②現状認識・評価等

学院全体としての理念や教育目的、育成人材像については明確に定められている。
人材育成の実現に向け、教育課程編成委員会で都度改善に向けた話し合いと取り組みを実施しており、その成果を感じている。
カリキュラムポリシー、デュプロマ・ポリシーを策定し、育成人材の計画・方法を定めている。
授業に関してはシラバスを作成し、目的と計画性を持って進めている。
様々な社会情勢の変化、業界の変化を意識し、今後業界で求められる人材像を教職員で共有し、学生に伝え、指導を行っている
現代の学生の特徴を捉え、人材育成の目的や育成すべき人材像については都度確認をしていくことが必要
中長期の目標はあるものの、学校単位での中長期構想（ビジョン）が不十分

③課題

学校としての中長期のブランディング・ビジョンについて見直し・改善を図る必要がある
入学してくる学生の傾向の変化に合わせた、人材育成法の展開。

④改善方策

学校としての中期計画の立案とそれに向けた年度目標、計画の策定
入学してくる学生の傾向・特徴への理解
カリキュラム、行事、就活取組などの2年間流れの検討・見直し、学生との関わり方の見直し。

⑤特記事項

基準２　学校運営

①自己点検評価結果

＊　5．完璧　　4．かなり進んでいる　　3．普通　　2．やや足りない　　1．ほとんど進んでいない　　NA．当てはまらない

2-4　　法人運営について	2024
学校の目的、目標に基づき学校運営方針は明確に定められているか	4
学校の目的、目標を達成するための事業計画が定められているか	4
学校は事業計画に沿って運営されているか	4
意志決定システムは確立されているか	3
意志決定プロセスのポイントとなる仕組み（会議等）が制度化されているか	3
意志決定の階層・権限等は明確か	3
業務効率化を図る情報システム化がなされているか	4
学校運営方針はきちんと教職員に明示され伝わっているか	4
学校運営方針を基に、各種諸規定が整備されているか	4

２－４について

②現状認識・評価等

学校の目的、目標を達成するための事業計画が定められており、理事会・評議委員会を経て決定されている。
そこから、各職員、各部署に必要なことは明示されている。
年間スケジュールで会議の日程が定められており、会議の運営についてはスムーズに行えている
意思決定の階層が明確ではなく、一部に集中する傾向がある。
業務効率化については、業務システムが導入され、効率化が図られている。

③課題

役割・階層に応じた意思決定の明確化と権限の分化
組織全体として、課題に対して活発に議論する形はできている。議論するのみならず、実現に近づけることが求められる。

④改善方策

学校運営における意思決定の棚卸と役割分担、責任所在の明確化
課題に応じたプロジェクトチームの結成、取り組み強化

⑤特記事項

2-5　　学校組織について	2024
運営組織はあるか	4
運営組織や意志決定機能は、学校の目的、目標を達成するための効率的なものになっているか	4

２－５について

②現状認識・評価等

運営組織があり、目的・目標を達成するためのものになっている
運営組織は各部門ごとに定着したものになってきている。
授業における部門間の連携も見られ、運営面での課題解決につながっている
（美容学科ワーキングスタディーコースの授業、未来プロフェッショナル学科授業等）

③課題

学生の多様化と運営の多角化により、今後はさらに部門間で連携をとって授業や学生指導にあたる必要がある。
学科ごとに細かな部分で異なるところがあるため、統一化を図る必要がある。

④改善方策

会議等における課題の検討、ルールの統一化、明文化

⑤特記事項

2-6　財務状況について	2024
主要な財務数値に関する情報とその推移を正確に把握しているか	3
年度予算、中期計画は、目的・目標に照らして有効かつ妥当なものとなっているか	3
予算は計画に従って妥当に執行されているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
会計監査を受ける側、実施する側の責任体制、監査の実施スケジュールは妥当なものか	4
私立学校法における財務情報公開の体制整備はできているか	4
私立学校法における財務情報公開の形式は考えられているか	4

２－６について

②現状認識・評価等

財務数値に関する情報は適切に管理されている。
監事による監査を２ヶ月に１回行っており、不適切事項があれば都度修正している。
会議において年度予算の開示、理由について説明を実施し、改善に向けて意識を統一させた

③課題

予算内で事業を実施していくための工夫が求められる

④改善方策

事業を実施する際の、より低コストでできるものの提案、場合によっては事業そのものの見直し
教職員全員が収支について理解し、コストを削減するための工夫を実施していく。

⑤特記事項

2-7　法令等の遵守について	2024
志願者、学生や卒業生及び教職員等、学校が保有する個人情報に関しその保護のための対策がとられているか	3
個人情報に関して、教職員・学生等に対する啓発活動を実施しているか	3
法令や専修学校設置基準等が遵守され、適正な運営がなされているか	4
法令や専修学校設置基準等の遵守に関して、教職員・学生等に対する啓発活動を実施しているか	3
自己点検・自己評価を定期的に実施し、問題点の改善に努めているか	4
自己点検・自己評価に関する方針は確立されているか	4
自己点検・自己評価に関する方針は関係者に対して正確に伝わっているか	4
自己点検・自己評価結果を公開しているか	5
自己点検・自己評価結果の公開に関する方針は確立されているか	4

２－７について

②現状認識・評価等

個人情報については保護されているが、さらに厳重に取り扱う必要性がある。
自己点検・自己評価が実施されており、学校運営の問題点の改善に努めている
自己点検の結果を踏まえて改善策を学校の年度目標に落とし込むものの、改善の取り組みが徹底されていなかった。
法令順守についてはコンプライアンス委員会が設立されており、周知されている

③課題

前年度の自己点検の結果を運営がしっかり把握し改善に向けての活動・実績につなげる必要がアル。
自己点検の内容の教職員への周知だけでなく、課題に向けた取り組みの徹底。
教職員が学校の問題・課題を理解し、改善に取り組む仕組みの構築

④改善方策

年度末の自己点検結果で課題の改善内容を次年度目標に反映し、会議などで継続的に検討し、組織的に改善に取り組む
組織構成員全員が問題解決に取り組む組織風土づくり。他人事ではなく、自分自身が考えて取り組むものであることをより一層浸透させる

⑤特記事項

基準３　教育活動

①自己点検評価結果

＊　5．完璧　4．かなり進んでいる　3．普通　2．やや足りない　1．ほとんど進んでいない　NA．当てはまらない

3-8　教育目標について	2024
各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに合致しているか	4
各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育機関を勘案して、到達することが可能なレベルとして明確に定められているか	4

3-9　カリキュラムについて	2024
学科のカリキュラムは教育理念、目的達成に向け十分な内容でかつ体系的に編成されているか	4
カリキュラム内容について、業界など外部者の意見を反映しているか	3
カリキュラムを編成する体制は明確になっているか	4

3-10　教科の指導について	2024
学生による授業評価をしているか	4
授業内容の設計や教授法等の現状について、その適否につき学科や学校として把握・評価する体制があるか	3

3-11　学生評価について	2024
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4

3-12　資格試験について	2024
目標とする資格はカリキュラム上で明確になっているか	4
目標とする資格の取得をサポートできる教育内容になっているか	3

②現状認識・評価等

教育目標が定められており、それに基づいたカリキュラムが設定されている。
職業実践専門課程の教育課程編成委員会の中で、カリキュラムには業界等外部者の意見を反映している。
教務リーダー会を中心に教育の方針や整備が進められている。
授業の内容についての適否に関しては教務リーダー会で検討され、シラバスに落とし込まれている

③課題

成績評価の方法ついて基準は設けられているが、教員間での評価に差があるため公平な評価の実施が必要
授業の設計方法や教授方法については教員間で研究が必要
シラバスを作成しているが、その評価や見直しを担当者に一任している。学科としての改善が必要。

④改善方策

成績評価の基準を授業の実態に合わせていくつかのパターンに分け、明確にする。
成績評価の結果に対しての取り決めをルール化、マニュアル化する。
学科内で授業の内容、教授方法について研究する。
各学科内でのシラバス見直し期間を設け、改善点を次年度につなげる

⑤特記事項

基準４　教育成果

①自己点検評価結果

＊　5．完璧　4．かなり進んでいる　3．普通　2．やや足りない　1．ほとんど進んでいない　NA．当てはまらない

4-13　就職率について	2024
就職率（卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率）の向上が図られているか	3
就職成果とその推移に関する情報を明確に把握しているか	4

4-14　資格取得率について	2024
資格取得率の向上が図られているか	3
資格取得者数とその推移に関する情報を明確に把握しているか	4

4-15　退学率について	2024
退学率の低減が図られているか	2
入退学者数とその推移に関する情報を明確に把握しているか	4

4-16　卒業生について	2024
卒業生の社会的活躍及び評価を把握しているか	2

②現状認識・評価等

就職活動については、学生の希望に沿ったものになっている。
資格取得に関して、受験率も合格率も向上している
退学者については、昨年度よりも改善されたものの、決して少なくはないため、さらなる改善を図る必要がある。
卒業生に関しては、卒業生自身の連絡が主な物であり、組織的に把握するための仕組みはない。

③課題

個々の学生の原因分析。対処法の検討。これを担任だけではなく、学科や教務リーダーで共有。
教員の教授力、面談スキルの強化、学生との関係性の構築に関する手法などについても学ぶ必要がある。
卒業生の活躍及び評価の把握

④改善方策

取得目標資格について、しっかりとした数字を記録する
教務リーダー会、各校会議で必ず情報の共有をし、対策を担任任せではなく共有しながら対策方針を練り、早い対応を心がける。
教務勉強会において学生対応を共有し、ケーススタディーとしてデータベース化していく
学生が自身の悩みを相談できる場所・時間の提供
卒業生について、定期的に情報を収集するための仕組みの構築。（SNS,HP、WEB等の活用）

⑤特記事項

基準５　学生支援

①自己点検評価結果

＊　5．完璧　　4．かなり進んでいる　　3．普通　　2．やや足りない　　1．ほとんど進んでいない　　NA．当てはまらない

5-17　　進路対策について	2024
学生の就職・進学指導に関する体制は整備され有効に機能しているか	4
在校生に対し、卒業生を例として特筆すべきものを記述できるか	4
就職に関する説明会を実施しているか	4
就職に関する学生個人相談を実施しているか	4
就職の具体的活動（履歴書の書き方など）に関する指導を実施しているか	4

5-18　　福利厚生について	2024
学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され有効に機能しているか	4
奨学金制度が整備され有効に機能しているか	4
学費の分納制度等、学生を経済的に支援する制度が整備され有効に機能しているか	4
遠隔地出身者のための学生寮等、学生への生活環境への支援は行われているか	4
定期的に健康診断を行うなど学生への健康面への支援体制はあるか	4
学生の健康管理を担う組織体制があり有効に機能しているか	3

5-19　　学生相談について	2024
学生相談に関する体制は整備され有効に機能しているか	4
学生相談室を開設しているか	3

5-20　　課外活動について	2024
スポーツ等のクラブ活動、ボランティア活動その他、課外活動に対する支援体制は整備され有効に機能しているか	3

5-21　　保護者との連携について	2024
保護者と適切に連携しているか	4

5-22　　卒業生への支援について	2024
同窓会を含め、卒業生をフォローアップする体制が整備され有効に機能しているか	2

②現状認識・評価等

国の就学支援の対象校になるなど学生の経済的支援についても、整備されている
学費の分納や遠隔地出身者への支援制度なども整備されている。今年度は能登地震による被災者支援も行った。
担任制度を採用しており、学生の相談に対応しているものの、学生の多様化により、より複雑な相談案件が出てきている。
スクールカウンセラーを設置し、相談に対応できる仕組みを作っている。
コンプライアンス委員会を組織し、学生や保護者からの連絡事項について横断的に問題を解決する仕組みを整備している。
卒業生については、学生の就職活動とも合わせて来校してもらうなどで在校生に活躍を伝えている。

③課題

学生の就職活動は担任が主となっているが、多面的に見ることも必要。その体制の構築
学生面談は定期的に実施しているが、担任ではない第三者にいつでも相談できる環境を検討していく必要がある。

④改善方策

就職支援体制の見直し、場合によっては就職支援室や外部人材も活用していく。
オンラインもふくめて学生が誰にでも、気軽に相談できる仕組みを構築する必要性がある。

⑤特記事項

基準６　教育環境

①自己点検評価結果

＊　5．完璧　4．かなり進んでいる　3．普通　2．やや足りない　1．ほとんど進んでいない　NA．当てはまらない

6-23　施設・設備について	2024
施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
施設・設備のメンテナンス体制が整備され有効に機能しているか	3

6-24　学外学習について	2024
学外実習、インターンシップ、海外研修等について外部の関係機関と連携し、十分な教育体制を整備しているか	4
学外実習、インターンシップ、海外研修についてその実績を把握し、教育効果を確認しているか	3

6-25　防災対策について	2024
防災に対する体制は整備され有効に機能しているか	4
災害を引き起こす可能性のある設備・機器等の情報は十分に伝えられているか	4
実習時の事故防止の体制は十分か	4
万が一の災害が起きた場合に備えた保健等の処置は十分なものとなっているか	4
防災訓練を実施しているか	4

6-26　学生の問題行動について	2024
学生の問題行動について対応できているか	3

②現状認識・評価等

施設設備の管理や点検は定期的に行われているが、一部破損や老朽化が見られ、修繕等が必要な箇所がある。
教育設備については、時代やニーズに合ったものに整備していくことが求められる。
業界と連携し、学外実数を実施している。またその評価を教育に反映している。
防災対策は、避難訓練をもとに、災害時の職員の役割等も毎年見直しがある。
学生の問題行動に対しては、共通のガイドラインを作成、それに沿った対応が以前よりスムーズに出来ている。

③課題

施設・設備の老朽化等に伴う改修、買い替え予算の確保
コロナが明けて、国内研修は実施したものの、海外研修の実施と実績の積み上げ

④改善方策

計画的な予算立案と余剰金の将来的な使途の明確化。ただ余剰を出すだけではなく、将来投資に回せるように計画性を持たせる。
外部機関の活用も検討しながら海外研修を企画すること。

⑤特記事項

基準７　学生の募集と受け入れ

①自己点検評価結果

＊　5．完璧　4．かなり進んでいる　3．普通　2．やや足りない　1．ほとんど進んでいない　NA．当てはまらない

７－２７　学生募集広報について	2024
学生募集活動は適正に行われているか	4
学校案内等は、志望者・保護者等の立場に立った分かりやすいものとなっているか	4
志望者等の問い合わせ・相談に対応する体制があるか	4
募集定員を満たす募集活動となっているか	2

７-２８　教育成果について	2024
学生募集において、就職実績、資格取得実績、卒業生の活躍等の教育成果は伝えられているか	4
卒業生の活躍の教育成果が学生募集に貢献したかどうか認識する根拠を持っているか	3

７－２９　入学選抜について	2024
入学選考は適正かつ公平な基準に基づき行われているか	4
入学選考に関する情報とその推移を学科ごとに正確に把握しているか	4
学費は教育内容、学生および保護者の負担感等を考慮し、妥当なものとなっているか	4
学費に関する情報とその推移を学科ごとに正確に把握しているか	4

②現状認識・評価等

順調に伸びていた募集活動に陰りが出ており、早急に改善策を練る必要がある。
卒業生の情報はパンフレットに記載したり、SNSで告知したり、オープンキャンパス等で訴求している。
物価高の影響を全体的に受けている。その中で学費については据え置いており、入学者の負担は実質軽減されている。

③課題

募集定員達成。
卒業生の情報の収集方法、定期的な連絡手段の確保、募集活動等への積極的な関与を依頼する。
募集における在校生の積極的活用、そのための教育・育成方法の検討、オープンキャンパスの運営組織・方法の見直し
物価の変動に合わせて柔軟に学費が徴収できる仕組みの構築

④改善方策

卒業生や在校生による情報発信の活性化
柔軟な学費徴収方法の検討

⑤特記事項

基準８　教職員組織

①自己点検評価結果

＊　5．完璧　4．かなり進んでいる　3．普通　2．やや足りない　1．ほとんど進んでいない　NA．当てはまらない

8-30　教員の組織について	2024
学校運営に必要な人材の確保と育成が行われているか	3
採用制度は整備されているか	3
教職員の増減に関する情報を明確に把握しているか	3

8-31　人事考査について	2024
人事考査制度は整備されているか	4
昇進・昇格制度は整備されているか	3
賃金制度は整備されているか	4

8-32　専門性について	2024
学科の育成目標に向け授業を行うことができる要件（専門性・人間性・教授力・必要資格等）を備えた教員を確保しているか	3
教員の専門性レベルは業界レベルに十分対応しているか	3
教員の専門性を適宜把握し評価しているか	3
教員の専門性を向上させる研修を行っているか	3
教員の教授力（インストラクションスキル）を適宜把握し評価しているか	3
教員の教授力（インストラクションスキル）を向上させる研修を行っているか	3
教員間（非常勤講師も含めて）で適切に協業しているか	3
非常勤講師の採用基準は明確か	3

8-33　各セクションの連携について	2024
組織の構成員それぞれの職務分掌と責任が明確になっているか	3

②現状認識・評価等

人材について、ビューティー総合学科については充実が図れた。美容学科は常に募集している状況。
人事考課、昇給昇格については制度化されて運用されているが、運用のや制度の在り方についての教育が必要。
教員の資質向上を目的とした勉強会を月に１回開催。各々の考えを共有している。教員経験が浅い教員には良い学びの場になっている。
勉強のための時間が設けられ、教員としてのスキルアップを図る機会が整備されている。

③課題

物価高に伴う賃金見直しや、教職員の向上心につながる評価制度の見直し。
時代の変化に合わせられるように教員のスキルアップ、質の向上

④改善方策

明確な評価制度と人事考課のフィードバック、それが年々構成員にとってレベルアップしていく仕組み
個々人の課題に対する年度ごとの目標設定と、具体的な実施計画の策定。
個々人のスキルの棚卸。何ができていて、何ができていないかを明らかにする仕組みの構築

⑤特記事項

基準９　社会貢献

①自己点検評価結果

＊　5．完璧　4．かなり進んでいる　3．普通　2．やや足りない　1．ほとんど進んでいない　NA．当てはまらない

9-34　ボランティア活動について	2024
学生のボランティア活動を奨励支援しているか	4
学生のボランティア活動の状況を把握しているか	4

9-35　施設の開放について	2024
広く教育機関、企業・団体および地域との連携・交流を図っているか	4
学校の資源を活用し、生涯学習事業や附帯教育事業を行っているか	4
学校の施設・設備を開放するなど地域社会と連携しているか	4
重要な社会問題について学生や教職員に対し啓発活動を行っているか	4

②現状認識・評価等

企業・団体との連携は意欲的に図っている。
社会問題に関しては、行政からの通達事項を随時告知、チラシ配布で啓発している。
外部団体と協力し、能登の被災地支援のボランティアに参加した。

③課題

能登半島のボランティア活動を継続的に実施していく。
ボランティア活動の意義や意味合いを学生にしっかりと落とし込む必要がある。

④改善方策

関連団体との連携を強化し、ボランティア活動を継続する。

⑤特記事項